

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報(第 1 号)の送付について

このことについて、下記のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく申し上げます。

記

1 情報の内容 ツマジロクサヨトウ (*Spodoptera frugiperda*) の早期発見と防除の徹底について

2 発生経過

令和 2 年 5 月 7 日、県内に設置しているフェロモントラップにおいて、ツマジロクサヨトウ 1 頭の誘殺を本年度初めて確認した。なお、トラップ周辺の飼料用トウモロコシ等での被害状況を調査した結果、幼虫による食害は確認されていない。

また、フェロモントラップによる調査は、現在、県下 7 カ所で行っているが、ほかの 6 地点での誘殺は未確認である。

(過去の発生経過)

令和元年 8 月、西予市の飼料用トウモロコシ圃場において幼虫による被害が初確認され、その後、東・中予の飼料用トウモロコシ圃場において被害が確認されている。国内での発生は飼料用トウモロコシが主であるが、スイートコーンやソルガムでも確認されている。

3 形態及び生態

成虫は開張約 37mm、雌雄で外観が異なり雄のみ前翅中央部に黄色い斜めの斑紋がある(写真 1)。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。終齢幼虫の体長は約 40mm、頭部中央の逆 Y 字が淡色で(写真 2)、尾部の刺毛基盤(黒色斑点)が隆起している(写真 2)のが特徴である。

本種は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産であり、熱帯では年 4～6 世代発生する。南北アメリカでは夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬できないとされている。

4. 被害の特徴

幼虫が植物の茎、葉、花並びに果実を食害する(写真 3)。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長に伴い分散する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する。

5. 防除対策

(1) 多発すると被害が拡大する恐れがあることから、圃場をよく見回り幼虫の早期発見・早期防除に努める。

(2) 使用可能な農薬については、農林水産省 HP を参照の上実施する。

「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-99.pdf

(3) 幼虫の分散を防ぐため、収穫後は直ちに耕耘する。

(4) 農薬の使用にあたっては、散布は無風又は風が弱い時に行うなど近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向、防除器具のノズルの向き等にも十分注意するとともに、隣接農作物の栽培者に対して散布予定農薬の種類や散布時期等を事前に連絡するなど、農薬の飛散(ドリフト)に留意する。

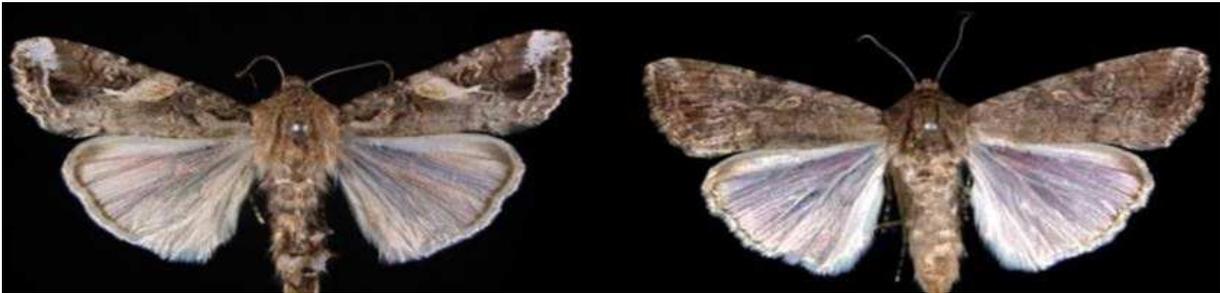


写真1 ツマジロクサヨトウ雄成虫(左)と雌成虫(右) ※植物防疫所 HP より



頭部中央
(逆Y字)



幼虫尾部
(刺毛基盤の隆起)



写真3 飼料用トウモロコシの被害
(令和元年9月)

写真2 ツマジロクサヨトウ幼虫
(令和元年9月)
※矢印は本虫の特徴